

文化・芸術

「顔」

1910年、パステル、紙
39・0cm×31・6cm

藤島武二 (1867~1943年)

今回どりの上げる作品は、グレーの紙のうえにパステルで描いています。紙の色を生かしながら、ハイライトだけに色を加えています。描きこんではいないのですが、まどろんだ若い女性の表情が、とてもよく表現されています。4年間におよぶ欧州留学で、藤島は、絵画における「単純化(サンプリング)」を体得しました。複雑なものの本質を見きわめて単純化することが、画面を構成するうえで一番大切なことだと語っています。

9月18日から10月20日まで、展示室5では、特集展示として「藤島武二コレクション」をご覧いただけます。素描、版画、水彩画などですが、若い時代から晩年まで、いずれもこの画家の創作の内側をみる意味で貴重な作品群です。展示作品100点は、すべて現在当館に寄託されているのですが、一堂にご覧いただける機会は、たいへんまれなのでどうぞご覧ください。

(田中)

〈名画の扉〉

大川美術館特集展示から

